

平安朝の歌合における「歌題」形成の追求

張蓉蓓*

要旨

平安朝『堀河院御時百首和歌』の時代、見事な百の組題が見られるようになった。『古今集』から堀河院まで約三百年を経て、和歌には「題」の意識が形成されたのであるが、「歌題」というものが誕生し、定着化してきたのはどういった経緯からであろうか。

歌題の形成において最古のきっかけは三つあると考えられる。千八百六十六年の賦詩題、二千八百八十二年の詠史題、八百九十四年の句題和歌である。本論は平安朝の歌合をする対象として、歌合の中で歌題を形成した要素の追及分析を行う。具体的な対象は『国歌大観』のうち『堀河院御時百首和歌』までの百三十三の歌合とし、歌題設定ができる要素を考察することとした。結論として、いくつかの設題要素が考えられた。定番である四季や恋、祝題のほか、漢詩題、前栽題、物合題、名所を題としたものなどの歌題があった。

歌論書である『俊頼髓腦』『毎月抄』などの中に歌題についてどのように提示されているかの検討によって、平安朝歌人の歌題に対する考え方と意識を究明したい。歌合や歌会には「題詠」的意識が強く、『古今集』の詞書で歌題について言及したのは僅か四首であった、その後の『金葉集』では、撰者が自分の意思で詞書を「題不知」に変更していることから見ると、『堀河院御時百首和歌』が成立した時点では、歌題は相当に意識されていたのではないだろうかと思われる。

キーワード：歌題、平安朝和歌、歌合、堀河院御時百首和歌、題詠

*輔仁大学日本語学科助理教授

探求平安朝歌合中〔歌題〕形成的起源

張蓉蓓*

摘要

日本平安朝後期，『堀河院御時百首和歌』清楚出現了一百組漂亮的組題，成爲後世和歌組題代表。從『古今集』到『堀河院御時百首和歌』的三百年間，並不明顯尋得〔歌題〕的蛛絲馬跡，究竟是何契機，使得〔歌題〕突然一聲平地起，令人驚豔，本論即在探討和歌〔歌題〕誕生的經緯。

由資料得知，王朝和歌歌題的前導有三：一、八六六年的賦詩題，二、八八二年的詠史題，及八九四年的句題和歌，此三項記錄可說是和歌有歌題意識的前身證明。本論以平安朝歌合爲考查對象，探討歌合中歌題的項目及特色，具體對象是國歌大觀中『堀河院御時百首和歌』前之一百三十三個歌合爲考查對象，分別列出歌題，歸納出可能設爲歌題的幾種可能性，及特殊歌題的檢討。以結論而言，除了傳統的四季題，戀題，祝題之外，漢詩題，前栽題，物合題，及名勝等地名爲題的其它項目爲其設題的主流。

從古注『俊賴髓腦』『每月抄』中對歌題的解釋與意見，了解平安歌人對歌題的重視程度，再對照現代學者對歌題的詮釋，得知「題詠」的意識在平安朝歌集中已佔重要地位，從『古今集』僅四首和歌的詞書中有提到歌題，到『金葉集』撰者依其主觀意識更動和歌詞書解釋，甚至改爲「題不知」的現象來看，堀河院御時百首和歌成立之時，歌題意識已有相當的成熟度。

關鍵詞：歌題、平安朝和歌、歌合、堀河院御時百首和歌、題詠

*輔仁大學日本語文學系助理教授

The items of classical poem in Japanese Heiancho's utaawase

Chang, Rong-bey*

Abstract

There is a poetry named [Horikawainn onntoki hyakushuwaka] in Japan Heiancho, there are 100 items of classical poem(waka) in this poetry. How the items be formed before this poetry is the main subject in this essay.

The research is focused on the utaawase(the poem's contest in Heiancho) before Horikawainn onntoki, there are about 133 utaawase, analyzed into the items of waka of all these utaawase, to find the possibility of the formation of waka in Japanese Heiancho.

Keywords: waka, Horikawainn onntoki hyakushuwaka,the items of waka, utaawase,
dai

* Assistant professor of Department of Japanese Language, Literature & Culture, Fu Jen Catholic University